

審査員奨励賞

丸森小学校 5年 穴戸 璃子

表題「友達とは何か」

書籍名「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」

私は、前に「ハリー・ポッターと賢者の石」をテレビで見たときに、すぐくおもしろかったので、本も読んでみることにしました。

この本で印象に残ったところは、ハリーが親友のロンから味方になってもらえなかったり、他の人から嫌なことをされた時にも、もう一人の友達に支えられながら、くじけずに課題に取り組んだことです。この時、ハリーは十七歳以上しか参加できない学校対抗試合に、資格がないのに選ばれてしまったことで周りから目立ちたがり屋だと誤解されたのです。

私も、友達と話ができなくて仲間に入れないことがありました。そんな時にも声をかけてくれたり、楽しく過ごしてくれる友達もいてすぐくうれしいと感じました。

親友といられなくなったハリーは、とても心細かったと思います。なぜなら、今まで一緒に大変なことを乗り越えてきたのに、急に味方になってもらえなくなったから、他の人と同じことをされるよりつらかったんじゃないかと思いました。また、ロンも最初はうらやましい気持ちで頭がいっぱいだったけど仲直りできたのはすごいと思いました。

私は、前に友達といやなことがあってもなかなか立ち直れませんでした。でも、この本を読んで、こういうつらいことは誰にでもあるんだなと少し心が楽になりました。そして、そういうつらい中でも、自分の助けになってくれる人がいるんだと気付けたことがすぐくうれしいし、そういう人を大切にしていきたいと思いました。本というものは、登場人物の気持ちになって考えたりすることで、色々気持ちを動かしてくれたり、自分の心の支えになってくれることもあることが分かり、自分になければいけない教科書のようなのだと感じました。テレビも好きだけど、これからもたくさん本を読みたいと思います。